株式会社フラットエージェンシー

人とのつながりが、まちをつくる

－地域密着だからできること－

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、長年に渡って賛助団体としてご協力いただいている、株式会社フラットエージェンシーです。同社代表取締役の吉田創一さんにお話を伺いました。

株式会社 フラットエージェンシー
代表取締役 吉田 創一 氏

場所が繋げる人と人

私たちは京都市北区の地で創業48年、地域の方々や周辺大学などとの繋がりを大切にしてきました。京都の大きな魅力は、京町家が育んできた地域と人との関係性だと考えています。

現在、新大宮商店街の一角で地主さんと共に、コミュニティイベントの計画を立てています。地域の方に加え、学生さんや子供たち、福祉関係者など多世代の皆さまにご参加いただくことを視野に入れて検討中です。また、京都市や設計事務所と共に、船岡山公園を地域の方に喜んでいただく場にする計画も進行しています。

コロナの影響などもあり、今後は一層、人との繋がりが求められると考えています。

学生さんが住みつづけたくなるまちへ

京都というまちに魅力を感じている学生さんでも、学校やアルバイト先など狭い範囲での関わりに限られてしまうことが多いです。ここ京都には多くの魅力的な企業や経営者の方がいらっしゃるにも関わらず、それを知らないままではもったいないと感じています。そこで、年間2000人近い学生さんにすまいを提供している私たちができることとして、学生マンションの住人と企業や京都市などとの、交流会やワークショップなどを開催しています。気軽に参加できるうえに、幅広い繋がりが生まれ、京都のまちやすまいへの理解が深まると好評です。

また、学生だけでなく社会人の方も入居可能なシェアハウスでは、多様な価値観と触れられることが、お互い良い刺激になっているようです。そのシェアハウスでは過去に、入居者同士で起業した人もいます。このような出会いの場をつくることで、京都に残る選択をしてくれる学生さんが少しでも増えると嬉しいです。

京都のさらなる魅力

京都には一人一人が活躍できる土壌がありますし、京都の魅力に惹きつけられた人たちもいます。地域の方や学生さん、企業などとの交流の場をつくることで、そのポテンシャルを掘り起こしたいと思っています。私たちは都市開発のような大きなことはできませんが、地域密着でやってきたことが強みですので、それを活かして今後も「まちづくり」=「コミュニティづくり」=「ひとづくり」に繋がる活動をしていきたいですね。

ニュースレター
京まち工房 101
公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3 まちの魅力向上に向けた空間の再生と活用

CONTENTS

P4 景観・まちづくり大学開催 報告　P5 「まちづくり交流サロン」をご紹介します　P6 専門家紹介（まちづくり・京町家）
P7 私と京都／スタッフのつぶやき／表紙イラスト作者紹介　P8 企業・団体紹介

令和4年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			
「京ぐらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「信頼される相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
京都市観光協会 KYOTO CITY	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	HACHISEI 八清 町家・中古住宅（はちせ）	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency	Sustainable Real Estate 健康不動産株式会社

ニュースレター京まち工房　第101号　2022年12月　　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：https://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

まちの魅力向上に向けた空間の再生と活用

新型コロナウイルスの猛威は余波を繰り返しつつ、徐々に落ち着きをみせつつあります。コロナ禍のため停滞を余儀なくされていた地域活動も再び動き出す中、京都市が新たに取組を始めている夜間景観づくりも取り入れながら、地域、事業者、行政等が連携し、まちの資源を見直し、新たな価値創出と魅力向上に向けた取組が各地域で進められています。

「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会

伏見区

伏見・宇治川派流ライトアップ実験

伏見は、豊臣秀吉の伏見港開港以来、昭和前半まで京都と大阪を結ぶ水運の要衝として発展してきた港町であり、現在も国内で唯一の「川のみなと」（内陸河川港）として十石舟・三十石船が運航されています。

令和3年4月、伏見港は「みなと」を核としたまちづくりを促進し、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設として、国土交通省から「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」として登録を受けました。

これを契機に、民・官の団体で構成する「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」運営・まちづくり協議会が設立され、協議会を中心に、伏見港界隈の新たな誘客・にぎわいの創出、伏見ならではの歴史的景観と文化の情報発信等が行われています。

酒蔵が立ち並び、十石舟が行き交う、伏見を代表する景観の一つである宇治川派流ですが、夜間は照明が少ないため人通りがあまりなく、寂しい雰囲気でした。夜間も楽しめるコンテンツをつくり、商店街等（まち側）との回遊の促進等、観光される方により長く滞在してもらう仕掛けづくりを検討するため、7月29日（金）、30日（土）、8月5日（金）、6日（土）にかけて、宇治川派流沿いライトアップの実証実験を実施しました。

宇治川派流沿いの行灯と酒蔵

京橋から蓬莱橋の眺め

宇治川派流にかかる京橋から辨天橋の間で、派流沿いの通路に行灯を設置し、蓬莱橋や月桂冠酒蔵にスポットライトを当てました。照明の設置場所や角度、色合い等、専門的な知識がないと難しい作業も多いことから、景観・まちづくりセンター（まちセン）が派遣した専門家の助言を参考に、自分たちの手で設営が進められました。実施期間を、商店街のお祭りや地域で行われるイベントと開催を合わせたことで、ライトアップを単独で行うより、まち側との回遊性の向上につながりました。宇治川派流の水面にうつる灯り、橋や酒蔵の普段と違う夜間の姿に、期間中、3,000名を超える来場者や商店街の方々からは、「また開催してほしい」など、多くの意見が寄せられました。

協議会から

今回の実証実験を通し、宇治川派流の水辺空間において優れた夜間景観を創出できることが明らかとなりました。今後、イベントとしての定着や継続を検討していく中で、地域や地元団体の機運を高めていくことや、ハード面での設えをどう整えるか等、見えてきた課題もありますので、今後のまちづくり事業に活かしていきたいと考えています。

嵐山まちづくり協議会

右京区

亀山公園の未来を考えるワークショップ 開催（9/30）

嵐山まちづくり協議会は、平成23年（2011年）から活動を始め、平成30年（2018年）に協議会、令和2年（2020年）に景観づくり計画が認定されました。

嵐山は、自然景観と歴史的景観が調和し、観光スポットであることから、オーバーツーリズムの解消策について検討されていました。

嵐山公園亀山地区（以下「亀山公園」）は渡月橋の上流に広がり、桜や紅葉の自然、保津峡を一望できる眺望が楽しめる場所です。しかし、近年は松枯れの被害、手入れの不十分さなどから名勝史跡としての本来の姿から遠のいていることや、**地域の資源として有効活用がされていないことなどが、以前から課題**として認識されていました。

昨年度、亀山公園について京都府京都土木事務所との協議が始まったことから、令和4年度活動方針の「2.嵐山らしい景観形成に向けた取組」に位置付け、これからの活用に向けた検討を本格的に始めました。

久々に地域全体で意見交換をする機会となり、70名近い参加者が集まりました。

当日の内容

講演1　「亀山公園の整備案」

講演2　「亀山公園の歴史的景観を将来に引き継ぐために」

ワークショップ

金久孝喜氏（郷土資料研究家）

大和絵に表現された嵐山の名所再生をテーマに、植栽を中心とした整備計画が提案されました。

深町加津枝氏（京都大学大学院准教授）

地形・歴史を踏まえ、写真や絵葉書から嵐山らしい景観を再考しました。

ワークショップの様子

講演を踏まえて、ワークショップで出されたアイデア・意見など（一部）

- いつも鬱蒼としている雰囲気。眺望が最大の魅力なので、桜などの生育や眺望を阻害する樹木を伐採することは進めつつ、植栽計画は継続して検討したい。
- 昔は小屋掛けの茶店があった。食事やお茶が楽しめる場所があるとよい。
- バリアフリーが大事。地元に住んでいても登りにくいと感じる。
- 竹林の道と亀山公園、お互いが往来しやすい動線づくりを目指したい。
- 新たな散策スポットとして認知されれば、嵐山エリア内の回遊性の向上、来訪者の分散化にもつながる。
- 地域の人に親しまれてこその持続可能性。利用されない場所は整備もされない。
- 地域で公園を管理させてもらい、収益を生み出すことで更なる整備につなげる工夫ができないか。
- なんでも行政任せではなく、地域で日常の維持管理を担うところから始めてはどうか。
- 管理については行政の役割、民間事業者の役割、地域の役割、多様な新しい参画の可能性を探る。

※嵐山の取組は、ニュースレター（NL）85号・93号でも紹介しています。

協議会：牧野会長から

多くの方から出された意見を実現できるよう、行政への提案を続けていきたいと思います。合わせて、まちの特性に合わせた嵐山らしい夜間の景観づくりも検討していく予定です。

速報！

先斗町まちづくり協議会

中京区

ピカッ！先斗町

（先斗町公園昼夜間利用促進に向けた実証実験）

先斗町まちづくり協議会では、令和2年度から、地域の魅力向上とにぎわいづくり、安心安全を目的に、鴨川ライトアップの検討を進めています。

その一貫として、先斗町通の中ほどに位置する先斗町公園において、公園が安心に憩えるための空間の再生と、災害時等に安全に避難できる避難路化を実現することを目的に、11/4～11/14まで、照明を設置し実証実験を行いました。

※先斗町の取組は、NL64号・97号でも紹介しています。

景観・まちづくり大学開催 報告

景観・まちづくり大学は、年間を通じて京都の景観・まちづくりについて学び、考え、実践へとつないでいくために開催しています。今回は、9月・10月の実施内容をご紹介します。

Report 01

京のまちづくり史関連企画 まちあるき講座

10月29日（土）は「堀川団地の歴史と空間、再生を学ぶ」と題して、大阪公立大学大学院生活科学研究科講師の土井脩史さんを講師に迎え、堀川団地内のまちあるきを実施しました。1950～54年に建てられた堀川団地は、戦後初期の店舗併用住宅であり、戦後復興住宅のモデルともなりましたが、老朽化に伴い、2013年度からは「アートと交流」をコンセプトに改修・再生事業が進められてきました。

当日はまず、交流の場として利用されている堀川団地内のレンタルスペース「堀川会議室」で、団地の再生プロセスに当初から深く関わってこられた講師から再生のコンセプトやプロセス等の説明を受けました。

堀川団地の外観

堀川会議室での講義

現在の堀川団地は、居住者の環境整備としての耐震補強やエレベータ設置、コミュニティ活性化の仕掛けとしての会議室やカフェの設置がされ、入居者は高齢者や子育て世代・グループホームやアート活動家など様々な属性の方々が入居する団地となっています。

講義の後は、京都府住宅供給公社の協力もいただき、個性的な間取りに改修し活用されている住戸と、建てられた当初の面影を残している住戸の見比べや、耐震改修された店舗などを見学してまわりました。また、建物の屋上に上がり、堀川団地のすぐ隣地から西へ広がる京都らしい町家も残る低層の町並みと、東側の道を挟んで東堀川通り沿いに建ち並ぶビル群という現在の景観を眺めました。高層化せずに3階建てのまま、周囲に配慮しつつ再生してきた堀川団地のあり方を耳と目で学んだ講座となりました。

特徴的な2階共用テラス

個性的に改装された住戸

耐震改修された店舗内部

Report 02

京町家再生セミナー

9月29日（木）は「京町家から江戸町家へ－東日本の町家の系譜とその出自－」と題して、立命館大学衣笠総合研究機構教授 大場修さんにご講演いただきました。

京町家（京都型町家）の影響が全国への波及する様子と、古くは京都型町家が存在した江戸において、江戸独自の「土蔵造り町家」が多くを占めるようになり、さらには東日本に広がっていく様子を解説いただき、全国に存在する様々な町家への理解を深めるセミナーとなりました。

10月26日（水）は「京町家の最新リノベ事情－京町家の保全と快適性・利便性－」と題して、建築士の内田康博さんにご講演いただきました。

京町家の保全と快適性を両立させるための改修の手法や、改修の際に検討すべき点など、京町家の改修を検討されている方が気になる事柄について、豊富な事例とともにご紹介いただきました。庭の効用や風通しの重要性など、京町家を受け継ぐ上で大切なことが示されたセミナーとなりました。

「ひと・まち交流館 京都」地下１階

「まちづくり交流サロン」をご紹介します

「ひと・まち交流館 京都」の地下１階には、まちセンの窓口の他、図書コーナーやまちづくり交流サロンなどがあります。まちづくり交流サロンでは、展示等により京都のまちづくりや京町家に関する各種情報を発信しています。どなたにも気軽にご利用いただけるまちづくり交流サロンに、ぜひ一度お立ち寄りください。

交流サロン全景

展示 01　ミニチュアと紙彩画で京町家の暮らしと仕事を再現

ミニチュアハウス作家の磯村友里さんと、紙彩画家の入江正司さんのコラボレーションによる「ミニチュアハウスと紙彩画による着物づくりと京町家―暮らしと温もり－」を常設展示しています。京町家の中で行われていた友禅染の製作を、「練り（精練）」から、「引き染め」や「湯のし」といった工程ごとに表現した京町家のミニチュアハウスと、和紙で京都の町並みを表現する風景画が展示され、京町家の暮らしと仕事の様子を知ることができます。

京町家や友禅染の製作にご興味のある方はもちろん、かつては京都中で見られた、暮らしと仕事が京町家の中で一体となっている様子を懐かしく思われる方にも興味深い展示となっています。

京町家のミニチュアハウス

紙彩画の展示（京町家相談コーナー）

展示 02　京町家の仕組みや材料を知るための展示

京町家の模型

京町家をより深く知っていただくため、構造模型をはじめとした様々な模型を展示しています。実際の京町家の骨組を見る機会はなかなかありませんが、模型をご覧いただくことで構造の全体像を把握することができます。

その他、京町家の虫籠窓の下地や、瓦屋根の下の様子を表した模型、「通り庇」とも呼ばれる下屋を支える構造部分の模型、木材の見本なども展示しており、実際には目にする機会の少ない「京町家を支える仕組みや材料」について知ることができます。

展示 03　木製防火雨戸の試作品の展示

木製防火雨戸とは、産（京都府建築工業協同組合等）、学（早稲田大学等）、官（京都市等）の連携により開発された、京町家の意匠の保存・復原と火災に対する安全性の両立が可能となる雨戸で、まちづくり交流サロンにはその試作品が展示されています。木製防火雨戸を実際に見て、触れることで、雨戸の魅力を体感いただくとともに、雨戸設置の検討や設計等にご活用いただけます。

なお、こちらの木製防火雨戸は、京都府建築工業協同組合により製作され、まちづくり交流サロンへの設置も同組合の皆さんにより行われました。

京都府建築工業協同組合の皆さんによる設置の様子

展示の様子

イベント　The Base-Mental Café（おおよそ月一で開催）

10月開催の様子

まちセン専務理事の北川が主催するカフェ「The Base-Mental Café」を、まちづくり交流サロン南側スペースにて、今年10月よりほぼ月一のペースで開設しています。お仕事帰りなどに気軽にまちセンにお立ち寄りいただき、おいしい飲み物を片手に楽しくおしゃべりをしていただけますよう、夕方以降にのんびりと営業します。

専務理事特製のブレンドコーヒーをはじめ、各種飲み物をワンコイン（100円）でご用意しています。詳しい開催日は、まちセンメルマガなどでお知らせいたしますので、メルマガ登録をお忘れなく。

まちセンメルマガ購読申込はこちらから
http://machi.hitomachi-kyoto.genki365.net/gnkk17/pub/magm_rule.php
（ひと・まち交流館地下1階　京都市景観・まちづくりセンターHP）

第26回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

京町家・邂逅と未来

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。
このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。

今回はこの方!

写真提供 ©空和建築研究所

津島 利章（つしま としゆき） 氏

令和4年度 京町家カルテ調査員
空和建築研究所　一級建築士事務所　主宰

1978年島根県生まれ。京都国際建築技術専門学校を卒業。
京都市内の建築設計事務所、数社での勤務を経て2019年（令和元年）に空和建築研究所を開設。
現在、京町家等の古建築からモダンな現代住宅まで幅広い設計活動を展開している。

ー 京町家との邂逅

何故か子供の頃から「建築」が好きでした。電気工だった父親の影響か建築工事の雰囲気が近くに有りました。中学生の時、米国の建築家、F・L・ライトの「落水荘」を知り漠然と「設計がしたい」と思う様になりましたが「建築家」という職業の実態が解かりませんでした。自分の周りに「建築家」は存在しなかったからです。地元の高等学校を卒業してから京都の学校に進学し卒業後、京都市内の設計事務所に入りました。マンション設計が主な業務ではありましたがここで初めて「実務」を学ぶ事になりました。

2001年、（有）長瀬建築研究所に入所し、文化財建築の改修や京町家の改修等、初めて古建築の業務に関わり経験を積みました。京町家に初めて触れる事になりここで「歴史」を学びました。

2008年、齋藤誉征アトリエに入所し、モダンな近代建築の設計を経験しました。ここではモノや考え方等の「思想」を学びました。又、この時期に文化財マネージャー養成講座を受講して京町家の事を深く知ることになり、初めてカルテ調査を経験しました。

約20年間の設計修行を経て、2019年9月に空和建築研究所を設立しました。年齢は41歳、主な得意先も無くノープランでの独立開業でした。少々、不安定な船出でありました。事務所勤務の時代に学んだ「実務」、「歴史」、「思想」は、現在の設計活動の根本になっています。

生谷家住宅　改修工事風景　　写真提供 ©空和建築研究所

生谷家住宅　竣工時風景　　写真提供 ©空和建築研究所

ー 京町家の未来

印象に残った建物として「生谷家住宅」（上京区竹園町）がある。大型町家の主屋部分は改修工事で、奥の離れは新築工事でした。長瀬建築研究所に入って3年目であり又、自宅と現場が近い事から足繁く通い職人の手仕事の真髄に触れる事が出来ました。

もう一軒は「古材文化の会」のメンバーと知り合いになり2013年、「湯川秀樹邸」の調査を行いました。この調査がきっかけとなり後にカルテ調査員の登録に繋がっています。

京町家の未来に思う事として、アトリエ勤務時代にも京町家の案件はたくさんありましたが古い町家の改修費用は莫大で、結局、コスト高から解体されてしまう町家を見てきました。耐震改修も含めて改修方法をもっと検討する必要があると思います。只、古い建物を残すだけでは無く、京町家の持つプラン（間取り）や設えの知恵等を現代の建物に反映させる事を考えるべきでしょう。又、近年京町家の価格が高騰して一般の人々には手の届かない価格になっている事も残念でなりません。

私と京都

京都の発見は続く

京都市都市計画局長 竹内（たけうち） 重貴（しげたか） 氏

朝。白川橋から白川のせせらぎと柳並木を、三条大橋から貴船や鞍馬の山々とゆったりと流れる鴨川を眺める。三条大橋は東海道、そして中山道の西の起点。中山道沿いの宿場町（岐阜県）にある私の故郷との繋がりを感じる。三条大橋を渡って高瀬川のたもとには、佐久間象山・大村益次郎遭難之碑が佇み、幕末から明治にかけての激動の時代に思いを馳せる。

…というのが、私の通勤ルート。歴史の現場と美しい自然と歴史の景観に満ちています。東京の友人に通勤の様子を話すと「いいなぁ」と羨まれる、我ながら誇らしい通勤ルートです。

京都に赴任してまもなく半年。

これまで京都には、旅行や出張で訪れたことはあるが、京都で仕事をするのも暮らすのも今回が初めて。そんな私にとって、歩きや自転車で京都のまちを巡り、まちを「発見」するのが趣味になっています。

京都のまちは、通りごとに建物も歴史も多彩で、歩きや自転車で巡る楽しさに溢れている。歩きや自転車のスピードでまちを巡ると、こんな建物があるのか、こんなお店があるのかと飽きることがありません。また、「かどはき」をする住民の方をお見掛けし、京都の方の「暮らし方」も、京都のまちを形作っていることを実感します。

京都のまちは、知れば知るほど「知らないこと」がわかってきます。そして、京都のまちは、歴史や伝統を守るだけではなく、常に新しいものを創造し続けて、今に至っていることを実感します。そんな「奥深さ」が、私をさらなる探求にいざないます。

東京にいたころと比べると、一日の歩数は約1.5倍。新たに自転車も買って、市内を走り回っています（それでも体重が一向に減らないのは、京都の食事やお酒にも魅了されているからではないかと…汗）。

また、街乗り用の自転車で大原まで走って全身汗だくになり、地元の方に「そんな無茶をしたのか」と驚かれたり、善峯寺から洛西ニュータウンまで歩いて、翌日筋肉痛に苦しんだりしたことは、（公然の）秘密です。

そんな京都のまちと景観を、さらに素晴らしいものにできるように、市民の皆さんや景観・まちづくりセンターの皆さんとともに、歩み続け、走り続け、発見を重ねて、京都のまちの「継承と創造」に挑んでいきたいと思います。

スタッフのつぶやき

前回節目の100号を発行し、新たなスタートとなった101号の表紙では、年末年始の京都の伝統行事を描いていただきました。ここ3年間コロナ禍で多くの行事が中止となりましたが、来る2023年は全てが元通りに戻りますことを祈っております。

特集は、「まちの魅力向上に向けた空間の再生と活用」と題して、伏見・宇治川派流、先斗町公園でのライトアップ実証実験や嵐山・亀山公園の有効的な利活用に向けた本格的検討の開始など地域、事業者、行政等が連携して、新たな京都の価値を創出し、さらなる魅力向上に向けた取り組みを紹介しています。これからも引き続いて地域の皆さんの様々な活動をお知らせしていきたいと思います。

表紙イラスト作者

アトリエ TAM **山口 珠瑛**（やまぐち たまえ）

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。
母の実家が仏光寺の近くの町家で、小さな頃よく町家で遊ぶ。
「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。
ユーチューブで京の生活を発信中。
「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいませ～

2022年は表紙絵を描かせていただけることになり、25周年の100号は記念になりました！
祇園祭、時代祭なども3年ぶりに復活して嬉しおす～
連綿と続く神事、祭事、行事の大切さが実感されますなぁ
2023年もさらにじんわり～と良いお年になりますよう京まちくん、福ねこ、お豆もお祈りしています。